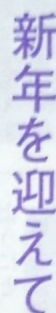


如之乃和

第 17 号

発行横浜市港北区
新羽地区社会福祉協議会
会長 柴田 周
編集人 松村 清見
港北区新羽町1839
☎ (542) 2410



港北区長
持田 一 晃



皆様には、日頃から、高齢のひとり暮らしの方への援助、新入学小学生への黄色い交通安全帽子の贈呈「年末たすけあい」等募金活動に、地域一体となった幅広い活動を展開されていることに厚くお礼申し上げます。

しかし、地域福祉の推進・充実に児童虐待防止などは行政の力で解決できることなく、地域の皆様の活動と見守りに期待す

ることが大であります。今後とも
ご支援とご協力をお願いいたしま
す。

なお、一月から、区民の皆様には福祉・保険に関して一体的なサービスができるように、区役所の福祉事務所と保険所の組織を一元化し、高齢者、障害者、子ども、生活困窮者等の対象者別に再編成した「福祉保険センター」が発足しております。

さて、今年六月にはワールドカップサッカー大会の決勝戦をはじめ四試合が横浜国際総合競技場で開催されます。港北区には世界から多くの人々が訪れますので、温かく歓迎し、港北区を世界にアピールしてまいりたいと思いますので皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

最後に、皆様のご健勝と新羽地区社会福祉協議会のますますのご発展を祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

新年にあたって

新羽地区社会福祉協議会

會長 柴田 周

あけましておめでとうござい
ます。新年を迎え新しい年への計画
を画いていることと思います。

さて、今の時代変化が激しくな
つております。今までの常識が通
用しない事態に遭遇する事もあり
ます。その中で、少子化と長寿化
の時代の歩みは、着実に進んでい
ます。核家族化による子育ての不
安、或いは高齢化による身体の不
調等の悩みをかかえる人達が増加
しています。

新羽社協は、昨年、「地域支えあい連絡会」を発足させました。地域の人々が支えあつて健康に生活して行く為に、何が必要なのか。何を行うことが出来るのか。その方策を求めて話し合いを始めました。連絡会は、町会長、民生委員、保健活動推進委員、老人会等の代表に、医療と介護の専門家の参加を得て構成されています。皆様からのご提言を頂ければ、活動に更に活力が加わると考えます。皆様の暖かなご支援をお願いいたします。最後に、皆様のご健勝を祈念致しまして、ご挨拶いたします。

赴任挨拶

新羽中学校長 和田 徑子

豊かな自然・人情厚い地域の皆様・結束力のあるPTAの方々・明るく素直な子ども・エネルギーシユな教職員との出会いに感謝しています。

昨年六月には、新羽地区社会福祉協議会の主催による、「新羽社協十周年記念・成田真由美講演会」を本校で開催していただきました。

その基調講演に全校生徒、参加した新羽小の児童、保護者、地域の皆様が感動させられました。本校三年生の「西山ちひろ」さんは「横浜市国際スピーチコンテスト」に港北区の代表として出場しました。この講演の感動を、題「平和が生まれる場所」として主張し、スピーカーという貴重な体験をすることができたのです。

また、「地域とともに歩む学校づくり」を推進し昨年十一月には「交流教育授業」を実施しました。多数の保護者、地域の皆様より講師として協力をいただきました。このように、本校の生徒は地域の豊かな教育力や、子ども視点に立った行事など、地域の宝として温かく育まれています。

環境は人を育むものです。本年度から新しく総合的な学習の時間も創設されます。皆様のご支援を頂き、生徒一人ひとりを大切に、その持てる力を伸ばせる教育活動に努めていきたいと思ひます。

新羽地区社会福祉協議会

相談役 会長

副会長

常務理事

理事

幹 會 事
" " 務
事 計 局

委員 委員長
委員 委員長
委員 委員長



齊藤	細川	江口	原田	望月	鈴木	望月	小野	土岐	小山	松村	中丸	松村	桑畑	望月	萩原	上村	西山	齊藤	岩崎	石原	小野	河口	小山	高宮	秋元	秋元	中山	長谷川	廣田	鹽山	土岐	米山	西山	中山	中山	中村	金子	柴田
恒江	よう子	淳子	仁美	喜男	ミツ子	要	雅江子	章臣	米子	清見	恵子	清見	美春	俊一	正夫	喜男	俊治	實	和雄	喜雄	明	久仁子	三郎	米子	正治	恵作	千代	幹雄	繁徳	徳次	良三	章臣	登	福平	信男	米太郎	國	

中之久保町内会

会長 長谷川武明

大変ご尽力頂いた来山滋前会長が健康上の理由で退任され、六代目を継ぐことになりました。

「木の葉ふりやまず、いそぐな、いそぐなよ」(秋の句)の心境です。幸い当町会はチームワークで成りたつていてと自負しています。町内会活動も広義のボランティア活動ですので気持ちよく、諸先輩の築きあげた伝統を大切にしながら、しかも変化に対応する町づくりを役員共々育んでまいりたいと思います。

雑感その一

町内のお祭りや、健民祭などに町会に未加入の子供たちも多数参加しているようです。町会費をもらっていないからと云ってお菓子やあげない訳には参りません。

火事が出たらどうするの？地元の消防団は必死で消しにかかるでしょう。多様な価値観をもった人達がいってよいと思います。願うことは一つだけ、その根底に「和」の心があつて欲しいと…

そこで、何とか啓発して加入率をあげたいものです。関係者の皆様の協力も併せて願います。

雑感その二

高齢化社会と子供をとりまく環境について。お年寄りの知恵は大変な物があります。これを子供達に伝え、子供達から元気をもらう一挙両得な何かそんなことが出来る出会いの場があれば世の中より明るくなる。

「心」への回帰、今問われているのはそこにある気がします。

中央町内会

酒川 博子

この度、民生委員、児童委員をお引き受けすることになり、今まで福祉に係わる機会もなく実際にどのような活動をしているのか知りませんでした。先日研修を受けて幅広く沢山の活動内容を知り、ますます責任の重さを感じております。高齢者と介護のこと、生活上不安のある人、障害のある人、子育てに悩んでいる人、高齢者でひとり暮らしの人、福祉サービスを受けた人等、人々の暮らしの変化と共に、福祉のあり様も変わってきました。全部理解するのも一朝一夕には不可能ですが、日々勉強して、身近な方々の問題解決のお

就任挨拶

撈

町会長・民生委員
児童委員・主任児童委員

北新羽町内会

小林 英子

心身共に「老い」を感じはじめ、出来るだけ人様に迷惑をかけないようにと、健康づくりに明け暮れたここ数年、早朝ウォーキングや、ソフトバレー、卓球など仲間と共に、体を動かすことに励んでまいりました。

半世紀以上も、この地に住んで地域に何かを返さなければと思っていたことも事実です。

こんな大役を仰せ付けられるとは思いませんでした。研修をつむ度に、役の重さを、感じていきます。

どうぞよろしく願います。

手伝いが出来るようがんばりたいと思います。又信頼される民生委員、児童委員になる様、自分も磨いていきたいです。

中之久保町内会

小林美奈子

昨年、十二月より中之久保第二地域の民生委員・児童委員を担当することになりました小林です。まだ右も左もわからない状態ですが、現在「民生委員とは・児童委員とは」を始めとしてどのような内容の仕事をするのか等々々と勉強中です。

一日も早く皆様のお役にたたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

主任児童委員

飯島由美子

この度主任児童委員を引き受ける事になりました。

今、私達のまわりは育児をはじめとして、子供達を取り囲む環境は、めまぐるしく変わってきています。

少子化、不登校、いじめ、等々あまり耳にしたり、目にする事のなかった言葉が飛びこんできます。

いろいろな形で学校、家庭、地域の連携のもとに諸先輩方のご指導のもと何かお手伝いが出されたいと思っています。よろしく願っています。

訃報

相談役 長澤 茂様
平成十四年一月十三日

当会創立以来相談役としてご尽力されました。

また新羽町南町内会長をはじめ、新羽町連合町内会長、区連合町内会長などを歴任されました。

晩年墨書を趣味とされ、本誌「ふくしの和」の題字を書かれております。ここに生前のご指導ご鞭撻に感謝し、ご冥福をお祈り致します。

ほっと・館宇宙

本田 和徳

はじめまして、地域作業所ほっと・館宇宙(そら)です。

昨年十月から新羽地区での活動が始まりました。十月三十一日にはお披露目会があり、地域の方々に多数起こしたいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。

ほっと・館宇宙の名称ですが、誰でもホッとできる、お互いが支えあつて生きる場所という意味と「放っておかないぞ!!」という二つの意味があります。

「宇宙(そら)」は空には国や人種の違いなど隔たりがありません。障碍の有無を越えて、共に生きる場をつくり上げたいと考え、この名称にしました。この名称に負けない活動を今後もしていきたい

と考えています。

その活動内容ですが、基本的に通所されているメンバーさん達の「やりたい事・したい事」を皆で話し合いながら実施しています。具体的な活動内容としては、畑での野菜作り、外出(買物や散歩など)、調理等です。これらの事をメンバーさん達が企画して、調べ物等準備をして実践しています。宇宙のメンバーさん達の多くが重度・重複障碍を持った方ですが、「生きることの喜びを感じ、生き生きと、主体的に、一人の市民として生きていく」事を目指して日々頑張っています。



又、本年度からは「お弁当作り・宅配」が活動に加わる予定です。もしよろしければ一度お試しください。詳細が決まりましたら、報告させていただきます。

活動日は基本的に月・金曜日で、時間は十時～十五時です。いつでも遊びにいらしてください。又、買物や散歩で皆さんの近所を通る事もあると思いますのでよろしく願います。

記念
講演新羽地区
社会福祉協議会
創立十周年
記念行事

昨年、創立十周年を迎え記念行事として、小、中学校のご協力をいただき、六月五日新羽中学校体育館において、記念講演会が開催されました。



現在世界は、文明の急速な発達により、長い時間かけて築き上げてきた文化の改革をせまられ、再構築のため、努力中のようなのです。政治も経済も環境も教育も国家も地方自治も事業所も家庭も個人までもが改革対象です。この改革という大きなうねりに大人達は戸惑い、子ども達も厳しい社会環境の中での勉学のように



す。

この時期に家庭内の平和が何よりも大切かと思われまふ。

改革後の新しき時代を担う子ども達が人生に目標（夢中になれるもの）を持っていただき、その目標達成のため毎日努力し、或いは長い人生中に挫折するような事があっても負けない強い精神力を備えて頂きたいための一助になればとのお話です。

講師の成田真由美さまは、聴講者とはほぼ同じ年齢（十三歳）の時突然骨髄炎発症、両下肢麻痺になつてしまった。その後およそ十年の歳月を経てトレーニングの仲間からの誘いにより、水泳の練習を始めたのがはじまりで、国内はもとより、アトランタ、シドニー、でのパラリンピックで、金メダル

を八個獲得しています。

当日のお話の内容は突然病気になる両足が麻痺で歩けなくなつてしまったこと、その驚きと悲しみで友達と会うのもいやになつたこと、障害者からのお話ごと、等エピソードをまじえてお話され、持参した金メダルを、手に取って見ることができ子ども達も大喜びでした。

学校では、小学六年生と中学生の感想文集を作成されました。

成田真由美さん講演会
感想文集

「自分の可能性を求めて」

平成13年6月5日
横浜市立新羽中学校

六年生 佐藤ともみ

成田さんの講演を聞いて、やっぱり成田さんはすごいと思いました。

昔、泳げなかったのに、今はパラリンピックで金メダルを八個も持っているし、タクシーの運転手やJRの人にも、ちゃんとした答を言ったりすることが出来るからです。

私が障害者だったら、絶対自分に自信が持てなくて、ずっと家の中にこもりつきりになると思いますが。

昔の成田さんも友だちと会いたくないと思つたことがあると言つていました。でも、成田さんは今、自分に自信をもつて堂々と生きています。これが一番すごいと私は思いました。

いつか私も足不自由になつてしまふかもしれないけれど、成田さんみたいに、これからは自分に自信を持つて生きていきたいです。

六年生 長沢 美徳

成田さんの話を聞いて思つたことは、すごくおもしろい人だなという事です。

タクシーの話が一番おもしろく、勇気がいるなと思いました。

たしかに、その運転手の人も悪いけど、成田さんは、すごく強くて、「日本タクシー協会」に電話して、言いつけたそうです。

すごくおもしろくて、勇気のあふ人だなと思いました。

最後に、金メダルを持たせてくれました。金メダルつて思つた以上に、すごく重かったです。また金メダルは一つ約三百万円するそうです。だから合わせて二千四百万円になると言っていました。

私は、四年生まで、水泳を習つていました。だけど足を使わないと泳げません。泳げたとしても、一、二メートルでしょう。手だけで金メダル八個なんてすごいです。私も成田さんの生き方を参考にしたいです。

* 成田真由美さんの
講演を聞いて *

- 1 講演を聞いて感動したこと
 - 2 講演を聞いて自分にはない良さの発見がありましたか
 - 3 成田さんの活動をおして学んだことで、実践してみたいこと
 - 4 その他感じたことがあったら書いてください
- 以上の項目で感想文をまとめられています。

1 □ 足がだめでも、前へむかつて生きていて、とても感動しました。一生懸命前へ向かつて、生きようとしている成田さんは、やさしい顔をしていて、とてもかやいてるのうに見えました。私もこれからのいかなことでもい事にたとえて、生きていこうと思ひます。

2 □ 今まで動いていた足が動かなくなり「何で怒らないの」とか考えていたことや、親に「ごめんね」とお金のことであやまつたり私達と同じぐらいの年でそんなに嫌なおもいをしたと言ふ事とか、皆と同じように生活できなくて苦しかつた事とかの話を聞いてすごく泣きそうになつてしまいました。

2 □ 成田さんは嫌だつたらその場で行動におこせていたのが自分ではできないなと思ひました。まだ子どもで言うのもあるけど、嫌なことがあつても自分がものすごくムカツクだけで、相手にはハッキリと言えないと思うので、成田さんみたいに、ハッキリ嫌なことを言える大人になりたいです。は、自分の事を気にせずに、誰よ



りも力強く前向きに生きている所だと思えます。私は、少しばかり自分の事を気にしていました。逆に気にし過ぎていたのかもしれない。

だから、今日の成田さんの講演を聞いて、これからは自分ももっと前向きに、そして力強く、成田さんの様な精神を持って生きたいと思いました。

■ バラリンピックにでたこと。私だったらそんな重病なのに水泳なんて。ましてや自分のきらいな事だったら、なおさら出来ない、やりたくないと思ってしまう。でも成田さんは目標に向かってがんばったことが素晴らしいなあと思いました。

■ 車椅子の人とくに話し掛けてあげることがいかに大切なことが分かりました。

3 ■ 今日の話で分かった精神的なつよさや、不自由な方や障害者の方への接し方を今まで以上に考えたいと思いました。

■ 町で体の不自由な人を見かけたら、優しく「お手伝いする事はありますか？」と聞けるようにしたいです。

4 ■ 金メダルをさらせて貰って、結構重かった。金メダルはずつとこのころからとてもいいと思う。

■ 私は、今まででも不自由な方を「嫌いだ」と思った事は一度もありません。何故ならば、私達はみんな同じ人間であり、不自由な人は、偶然(と言ったら失礼ですが)そうなったただで、他は普通の人は何にも変らないからです。だから、もう少し周りの人が「みんな同じ」という考えを持って接したらいいと思います。

以上感想文集よりの抜粋。

第10回 新羽フェスティバルに思うこと

新羽地区連合子ども会

会長 西山 一

平成十三年八月十一日土曜日、朝から蒸し暑くどんよりした曇り空で鶴見の方から黒い雲がどんどん流れて来ている、とうとう夕方四時四十五分頃。雷鳴とどろく大粒の雨が堰を切ったようにふってきた、そして六時頃びたつと止んだ。



今年、第十回を迎えることと二十一世紀の始まりと言うことで盆踊りを大幅に縮小して地域の子どもから大人まで誰もが参加できて楽しめるフェスティバルにしたいと思い、多少の不安はありましたが時代は確実に新しい何かを求めていることを我々は感じ、実行委員一同で企画をねって大きく内容を変えてみました。

雨上がりの会場の空気を一気に引き裂いてくれたのは、鶴見大学の女子学生による生バンドでした。彼女たちは、実行委員会の打ち合

わせにも参加していただて意見も貰いました。プロ並みの演奏の前には、会場に遊びに来ていた若い人たちも一体となって全身でエネルギーを発散して熱くなっていました。

続いて小学生によるバラバラ踊りや中学生のダンス、明日があるさの替え歌など次々にパフォーマンスを見せてくれました。

“明日があるさ”は新羽中学校の国語授業の一環で生徒が作ってくれた中から代表作を披露してくれました。

そしていよいよ今回の目玉と思っていた新羽小学校三、四年生による“よさこい踊り”の番です。

みんなドキドキして待っていました、が始まってからのびのびと躍動的な“よさこい踊り”を披露してくれました。

これには、見ていた大人達も心を踊らされるような感動を覚え、保護者の方でも子どもの成長に目を細めていました。

新羽小学校の全面的な協力により実現する事が出来、子ども達がよく練習されていて本当にすばらしかったです。

その後、地域の方々によるマジックショー、南京たますだれなど熟練した技を見せてくれて子ども達も喜んでいました。

フィナーレは会場の全員がグラウンドいっぱいに輪を作って踊りの師匠の指導により、大人から子どもまでみんなが楽しく盆踊りを踊りました。

そして忘れてならないのが、各町内会子ども会や関係諸団体のみなさんによる模擬店は、このフェスティバルにはなくてはならない存在になっています。まだまだ書

きたいことはたくさんあるのですが、最後にこのフェスティバルが町内会、学校、関係諸団体等多くの方のご協力、支えがあつて実施出来ていきますこと、実行委員会を代表して深く感謝申し上げます。

地域支えあい連絡会

会長 中丸 恵子

昨年四月から実施された介護保険制度の促進と充実を図るため、横浜市の施策として、市内全ての地域に「地域ささえあい連絡会」を設置していく事になりました。港北区でも五地域ケア施設エリアで八連絡会が平成十三年三月に発足しました。新吉田地域ケアプラザには新羽、新吉田、あすなろ地区の三つの連絡会があります。

主旨としては、地域にお住まいの一人暮らしや、ご夫婦の高齢者世帯等、誰もが住みなれた地域で安心して自立した生活ができるよう保健、医療、福祉等が連携して、必要なサービスや地域での支援活動を一体的、総合的に提供していく事を目的とするものです。

新羽地区の構成メンバーは町内会長、地区社協、民生委員、保健指導員、ケアマネージャー、区社協職員、区役所職員、新羽にできた老人保健施設カメリアの相談員などの福祉関係者の他、新羽地区の保健医療の専門職として藤塚外科、胃腸科の先生にも加わっていただきました。そしてそれぞれの専門性をいかした役割を担い、地域ぐるみでかわって行こうというものです。

新羽地区での具体的な活動として、ケアマネージャーとの連携を図り介護保険サービス以外のさま

ざまなサービスも含めた、介護サービス計画の作成を支援し、適切な居宅介護支援を推進したり、地域で不足している社会資源の把握(例えば一人暮らしのお年寄りの買物の手伝い、病院への送迎をする、庭木の剪定や簡単な大工仕事を手伝う等)をして、地域でこういうニーズに応えられるボランティアの組織作りなど、地域の課題を地域で考え、解決できるように、地域の皆様で力を合わせていきたいと考えています。「私はこういう事なら手伝えるわ」とか「時間が合えばボランティアをやってみようかな」など興味はあってもある方、是非ご連絡をいただければと思います。近い将来、東海地震が起こるかもしれないと言われているです。こういう時も速くいる親戚より、近くに住んでいる知り合いの方が、どんなに心強いかわれませんか。頭片隅に「あそこに住んでいただけ大丈夫かしら」と思っていただければそれだけでもボランティアになります。世間では児童虐待等お年寄りだけでなく子供達も生きにくい時代になっています。新羽地区の田舎の特性を良い意味で生かしていき、誰もが安心して暮らせる、住みやすい町づくりを実現するためにご協力をお願い致します。

編集後記

原稿をお願いいたしました皆様には年末で多忙のところ寄稿していただき誠に有難うございました。また限られた紙面の関係から文章を短縮、変更致しました事、お許しの程お願い申し上げます。